

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 26_1/1_4	タイトル 日本で一番すみよい街へのチャレンジ	自治体名 福岡県北九州市
アイデア名(注2) (公開)	小倉駅前の歩道・ペDESTリアンデッキ・車道を利用した、多様な人が集まる地域コミュニティ空間「KOKURAシンボルプレイス」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	北九州市立大学小林ゼミ「チーム社会人学生」		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	4名 森田泰徳 林沙弥香 兵頭聡一 小林敏樹		
代表者情報	森田 泰徳		
メンバー情報	氏名(公開)	林沙弥香	
		兵頭聡一	
		小林敏樹	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

1. 北九州市の人口が減少し続けている

2019年の人口動態調査によると、総計が前年比5089人減と、5年連続で減少数が全国最多となった。人口の減少に歯止めをかけ、また、交流人口や関係人口の増加による賑わいを創造したい。

2. 公共施設の維持管理費が負担となっている

北九州市が保有する公共施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけて整備されており、建築後30年を経過した施設が半数を超えている。これらの公共施設は、すでに老朽化が進んでおり、今後、大規模な改修や更新が必要になってくる。このため現在ある施設を利用して、維持管理費の経費を確保する仕組みを創造したい。

3. 小倉が北九州市の顔として機能していない

現在の小倉駅前には、歩行者や自動車の交通機能を担っているのみであり、単に通過し移動するための空間となっているため、北九州市と言えば小倉駅であるというシンボルプレイスを創造したい。

<解決アイデアの内容>

事業の概要

様々な階層に属する人たちが出会い、異なるコミュニティをつなぐ KOKURA シンボルプレイス

ビジョン

人口の減少や少子高齢化の進展の中で、都市の活力を維持・向上していくため、都市機能の集約を進めていくことが今後の課題となる。そのためには、多く人が行き交う小倉駅前の公共空間を、人々が集う交流の場へと変えていくことが必要である。今後は、現在ある公共空間や公共施設の利活用を促進し、賑わいやコミュニティを創造する。より充実したものへ更新を図るために、北九州市の中心である小倉駅前の空間を、「シンボルプレイス」と位置づけ、年齢や地域や国籍等を問わず、様々な階層に属する人たちが出会い集う、多様性のある駅前空間に変えることにより、北九州市を活性化、今後の発展を促進していく。

KOKURA シンボルロードとは

小倉駅前から勝山通り（小倉駅前交差点）までの空間（歩道・ペデストリアンデッキ・車道）を利活用多くの人が行きかう駅前という立地の優位性を活用した、多様な人が集まる地域コミュニティ空間として歩道・道路・空間を積極的に使いこなし、地域の共有空間・アクティビティの場とする。

1. 共有フリースペース（異なるコミュニティをつなぐフリースペース）

（例）○絵画・写真・手作品等展示等のスペース

※北九州市民の作品展示

※北九州市内・外のアーティストと市民をつなぐ

○大道芸・ストリートパフォーマンス等のスペース

※大道芸人と市民をつなぐ



図表-1

○ファーマーズマーケット

※北九州の郊外で農業を営む人や家庭菜園で栽培収穫された農作物と市民をつなぐ

2. 店舗設置スペース（店舗スペースを賃貸借契約により賃貸する）

（例）3m×1m=3㎡の箱店舗による1坪起業

○場所を貸すことによる賃料収入 ○短期賃貸によるお試し起業 ○屋台スペース

3. 時間貸しスペース（時間と場所を区分しての時間貸しスペース）

（例）時間や曜日を区切ってのお試し起業や活動

○まちなかヨガ ○NPO 活動 ○市民活動

（例）時間区分

区分	時間
区分1	7:00~9:00
区分2	9:00~11:00
区分3	11:00~13:00
区分4	13:00~15:00
区分5	15:00~17:00
区分6	17:00~19:00
区分7	19:00~21:00
区分8	21:00~23:00

図表-2

（例）広場使用負担金

		広場使用負担金			
		営利（販売行為あり） 1区分ごと	非営利（販売行為なし） 1区分ごと	長期営利利用 1日ごと	長期非営利利用 1日ごと
平日	全面	2,400円	1,200円	10,400円	5,200円
	半面	1,200円	600円	5,200円	2,600円
	1/4面	600円	300円	2,600円	1,300円
平日	全面	2,880円	1,440円	10,400円	5,200円
	半面	1,440円	720円	5,200円	2,600円
	1/4面	720円	360円	2,600円	1,300円

図表-3

4. イメージ図



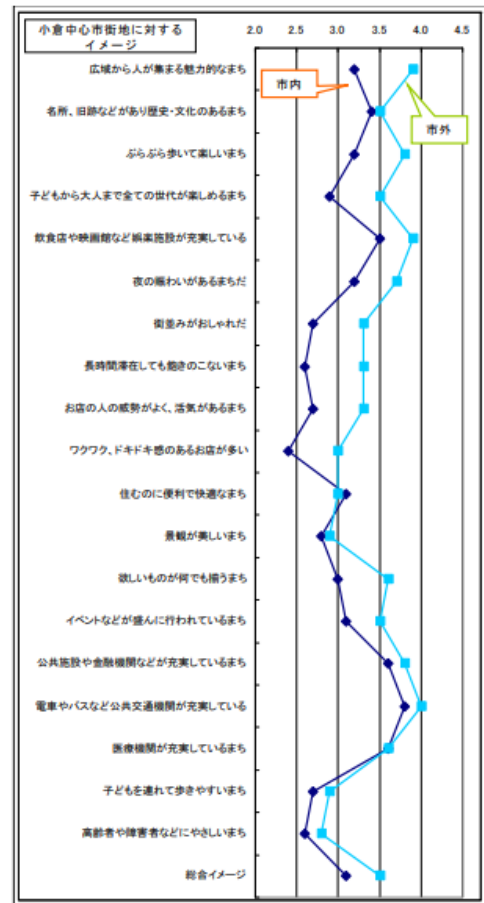
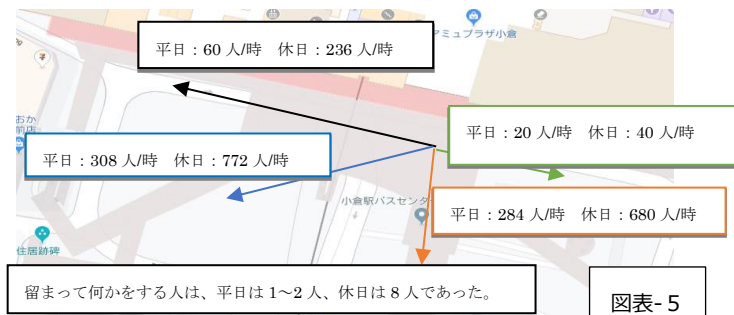
図表-4

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

1. 歩道の活用

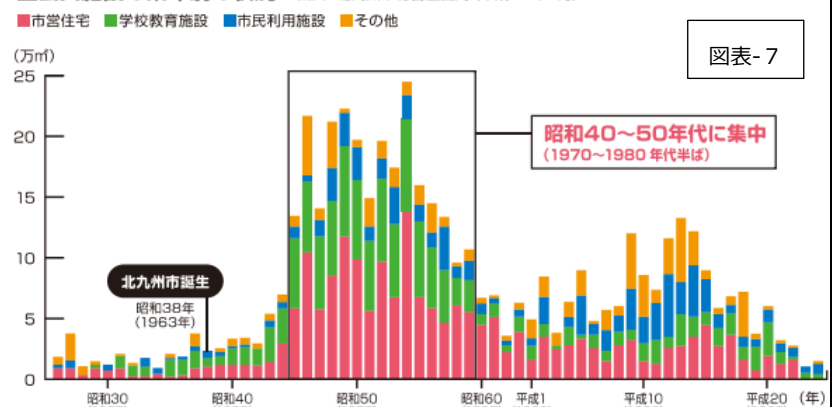
2015年に行われた市民意識調査の結果、北九州市民の意識では「人口減少や高齢化が進み、子供が減っている」「郊外に大型店が増え、街中の商店街が衰退しつつある」と回答した人が2001年より増加している。また、まちの「にぎわい」については、小倉で自転車走行空間整備は進んでいるものの、小倉・黒崎において歩行者交通量は減少してきており「にぎわい」は低下しているといえる。令和1年12/2（平日）11:00、11/24（休日）11:00の小倉駅ペDESTリアンデッキの歩行者の交通量の調査を行った。歩行者の交通量を比較すると約1/2～1/3であった。平日と休日では交通量の差はあるが、ただ歩行するのみであった。そこで立ち止まって何かをする人はほとんど、見られなかった。また、北九州市の「若者意識調査アンケート」の結果では、文化的交流の少なさや、地域のつながりの少なさが指摘されている。



2. 公共施設の現状と課題

北九州市が設置している公共施設は、平成30年3月末時点で、施設数は2,527施設、建物数は6,957棟、総延床面積は約546万㎡となっている。その多くが、昭和40年代後半から昭和50年代に建築されている。1人当たりの公共施設の保有量率は5.0㎡と全国1位でもある。これらの施設はすでに老朽化が進んでおり、近い将来、大規模改修や立替えが必要な状況になってくること予想される。また、本市の人口は、平成25年3月に国立社会保障・人口問題研究所の発表によると、総人口は減少していく事が予測されている。

■公共施設の築年別の状況 出典：北九州市総務企画局（平成25年3月）



また、人口構造も、年少人口や生産年齢人口が減少し、老年人口は増加する推計となっている。理由は様々あるが、本市は、今後40年の間で約20%の公共施設を削減する方針である。公共施設の中には道路や歩道など

は含まれていない。そのため、今現在予測されている以上の公共施設整備費はかかる事が考えられるため、その財源をどのように確保していくかが問題となる。

総務省モデルに基づく公共施設・インフラの更新費用算出結果 出典：公共施設マネジメント方針

内 容	試算条件	今後40年の合計	1年平均
公共施設	建築後30年で大規模改修 建築後60年で建て替え	約1兆2,040億円	約301億円
道 路	整備後15年で舗装の打ち換え	約3,800億円	約95億円
橋りょう	整備後60年で架け替え	約1,040億円	約26億円
合 計		約1兆6,880億円	約422億円

3. 道路、街路などの空間の活用

図表-8

一般社団法人自動車検査登録情報協会によれば、自動車保有台数は年々増加してきている。その一方で、高齢ドライバーの免許返納や、自動車シェアリングなどにより自動車を保有していない人たちも増えている。そのため、道路の車の交通量は減っていくことが予測される。現在、駅前の車道は3車線となっている。西鉄バスは1分に1台の通行量がある。バスプール内で渋滞を起していることもみられる。自家用車およびタクシーは1時間で約264台程度であった。駅前の車道と並行しモノレールが走っている。そのため、モノレールと西鉄バスで利用者を奪い合っているような状況にもなっている。

4. 北九州市は「都会+田舎」

「北九州まちひとしごと創生総合戦略（概要）」において、2020年の北九州のまちは「安全安心なまち、文化・芸術のまち、都市と自然が調和したまち」としている。北九州市の農家は現在、約3000戸あるといわれている。福岡県の調査によると、北九州の耕作放棄地は480haあるとされている。これらの土地を活用する方法として、JA北九は市民農園を行っていが、活用されているのは一部のみである。農家として農業を行っている人だけではなく家庭菜園として農業を行ったり、市民農園で農業を行っている人もいる。これらの人々が、自分が作った農作物をもとに人々と交流する場が都市にない。実際に農業を北九州で行っている人に話を聞くと、農作物は道の駅やJAの出店及び、個人的予約ですべて販売することができるということであった。このことから、地元で作られた農作物を求めている人は多くいることがわかる。農作物だけではなく、趣味でアクセサリを作ったり、写真を撮ったり、絵を描いている人は市民にたくさんいる。しかし、それらを発信している場が少ないのも現状である。北九州市の「若者意識調査アンケート」の結果でも、文化的交流の少なさが指摘されている。自由に自分が作ったものを発信し、文化の交流をする場所が都市にあるとより市民レベルでの文化交流ができるのではないかと考える。

5. 住みやすい都市とはなにか

ジェイン・ジェイコブスは、郊外都市開発などを論じ、また都心の荒廃を告発した著書である「アメリカ大都市の死と生」のなかで、「都市の本質とは、お互いに知らない人々が集まり、過度に干渉せず関係を築けることである。その関係が、街路という公共的な場所を核として発達する」と述べている。都市の街路、歩道は多くの目的を持つため、都市における主要な公共の場であり、最も重要な器官である。都市を安全に保つのは、都市の街路や歩道の根本的な仕事の一つである。今の再開発、都市作りは安全ではない街路や歩道づくりになっている。街路の公共性を保つには、そこに多様な商業経済活動とそれが生み出す「ついで」の活動である。何かの目的を果たすための、移動手段としての街路ではなく、その街路に人目を提供することで繁栄につながる。つまり、歩道がどのように活用されているかが重要となる。数多くの機能や人々の複雑な絡み合いから生じる、複雑な創発的な秩序が都市の発展につながり、住みやすさを創出する。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

図表-9	1年目			2年目			3年目			4年目		
	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月
組織の運営	→											
勉強会	→											
交通量の調査 (ヒト・車)	→											
タクティカル・ アーバニズム				→								
出店ルール決め				→								
希望者を募る							→					
法・条例への対策										→		
資金調達										→		

1. 組織の運営

公共空間を活用していくためには、官・民の連携が重要となる。そのためには、エリアマネジメントの手法を用いて住民や商店街の店主、JR九州や市役所の職員、We Love 小倉など様々な人々をメンバーとして進めていく。また、参加する人々の意識の変革も必要となる。公共空間は行政の管理下にある簡単に利用してはいけないものという意識では、このアイデアの実現は難しい。そのため、「空間、制度、組織の意識の変革」に向けた勉強会からスタートしていく。

2. 交通量の調査

時間帯や曜日の違いを考慮し、人や車の交通量だけでなく導線も含めて調査を行う。そのうえで、シミュレーションを行い、実際の交通への影響があるかのかないのかを明らかにする。影響を最小限にするための方策を考える。

3. タクティカル・アーバニズム

歩道や車線減少のためのシミュレーション、出店やイベントスペース設置に関する社会実験、歩道の店舗に用いる材料サンプル設置実験など、様々な変化がある。そのため、タクティカル・アーバニズムの概念を用いてプロジェクトを実施していく。例えば、ペDESTリアンデッキでの大道芸を行う事で、人の動きがどのように変化するかを確認し、次の段階へとステップアップしていく必要がある。その結果、組織運営に参加する人の「公共空間」の認識の変化だけでなく、市民や企業の「公共空間」への認識も「皆の場所」であり「自分の場所」と変化を遂げると考える。

小さなものから積み重ねていくことで、少しずつ空間のイメージの共有を図ることに繋がる。そのうえで、問題点を明らかにしながら改善策を検討していく。

4. 出店ルール決め、希望者を募る

駅前には商店街がある。そのため、商店街の方との検討しながら出店のルールを決める。また、安全性の対策を考慮したものとする必要がある。ペDESTリアンデッキは歩道であるため、歩行者の通行の妨げにならない方法で最大限の活用ができるものにしていく。また、フリーライダーを防ぐための対策も必要となる。出店ということだけでなく、文化的交流ができるような場所とするルールも必要となる。さらに、スペースを使用する際の賃料をどの程度に設定するのも必要となる。

5. 法・条例への対策

ペDESTリアンデッキは歩道であり歩行以外の活用はできない。そのため、国家戦略特区や条例を活用し、歩道を公共空間として活用できるようにしていく。そのためには、小さな実験やの積み重ねや大きな実験での結果を踏まえて申請していく。

6. 資金調達

プロジェクト実現に向けて必要となる物品などのピックアップをし、また、出店などを希望する人々にどのようなものが必要かを調査する。その後、いくら予算が必要か検討を行う。また、恒久的なものを作成するわけではなく、いまあるものを活用しながらプロジェクトは実施していくため、資金はそれほどかからない。資金調達としては、関係する人が少しずつ資金を負担していくことで、よりよいプロジェクトになっていくのではないかと考える。

